

# 国際交流

平成 9 年 9 月 30 日 創刊  
 平成 28 年 3 月 31 日 発行 (第 37 号)  
 二松学舎大学国際交流センター  
 〒102-8336 東京都千代田区三番町 6-16  
 Tel: 03-3261-5751

### ◆目次◆

周口師範学院外国語学部（中国）との交流に関する合意書締結 ..... 1

北京大学歴史学系への学長表敬訪問 ..... 1

派遣留学修了報告

  文学部 4 年 佐藤 夏華（北京大学派遣） ..... 2

  文学部 4 年 湯本 智瑛（中国文化大学派遣） ..... 2

交換留学生留学修了報告

  浙江工商大学 黄 碧波 ..... 3

  浙江工商大学 任 夢青 ..... 4

  浙江工商大学 喻 星 ..... 4

平成 27 年度秋 semester 交流会実施報告

  文学研究科 博士前期 1 年 李 艶萍 ..... 5

  附属柏高校との交流会

    国際政治経済学部 3 年 張 輝 ..... 5

平成 27 年度第 12 回外国人留学生日本語スピーチコンテスト開催

  ..... 6

  学長賞受賞スピーチ ..... 7

    交換留学生（台湾・中国文化大学）許 瑞玲

平成 27 年度国際交流年末懇親会報告 ..... 8

平成 27 年度海外協定校教職員相互訪問制度に基づく教職員の来訪

  ..... 8

国際交流センターからのお知らせ ..... 8

## 二松学舎大学文学部と周口師範学院外国語学部(中国)との交流に関する合意書締結

平成 27 年 12 月 19 日（土）、江藤茂博文学部長と国際交流センターの小西事務室長が中国河南省の周口師範学院を訪問し、本学文学部と周口師範学院外国語学部の学生の海外留学の機会享受を目的とした「二松学舎大学文学部と周口師範学院外国語学部間の学生交換プログラムに関する合意書」を締結しました。

合意書締結後に、江藤文学部長による記念講演会が開催されました。100 名以上の外国語学部日本語学科の学生が熱心に聴講し、様々な質問・意見を江藤文学部長に投げかけ、大変活発な講演会となりました。

今後は、この合意書に基づき、本学文学部と周口師範学院外国語学部との間で、交換留学を含む、学生の交流を推進していきます。

### 《周口師範学院について》

周口師範学院は、中国の河南省周口市にある河南省立の総合大学です。創立は 1973 年。学生数約 24,000 名、教職員約 6,000 名、同学院外国語学部には、1,845 名の学生が在学し、内、日本語学科には 218 名が在籍しています。

大学としては新しい方ではありますが、学生の質を高め、教育の内容を向上させることに努力しており、近年では“河南省教育品質管理先進部門”を始め多くの称号を獲得しています。

国外との学術交流にも力を入れており、米国、英国、豪州、日本、韓国、台湾の協定校と交換留学生の相互派遣を行っています。



周口師範学院との合意書締結

## 北京大学歴史学系へ学長表敬訪問

平成 27 年 10 月 22 日（木）～10 月 25 日（日）の日程で、菅原淳子学長が北京大学歴史学系を表敬訪問しました。北京大学歴史学系とは、1996 年の夏の短期海外語学研修の実施を皮切りに、1999 年に本学と交流協定を締結しました。協定締結から今日に至るまで、教職員相互訪問、学生交流（1 年間の交換留学）、夏の短期海外語学研修等、精力的に活動を実施してきております。今回の学長表敬訪問では、菅原学長と北京大学歴史学系の長である張帆先生の間で、今後も実のある国際交流を継続し、両大学間の更なる発展を目指していくこととしました。



北京大学にて

## 派遣留学修了報告



### 中国・北京大学

文学部4年 佐藤 夏華

「心配ない。私は何度も上海には行っているし、何も怖いことなんてないだろう。」

2014年の9月から北京大学に1年間留学することが決まりました。憧れていた中国語での授業、今までの

日常とは違う生活にドキドキし、日本を離れて留学に行くことに対して何も不安なことはありませんでした。

2014年9月4日に北京に到着し私の北京生活が始まりました。最初に感じたことは、同じ中国でも上海と北京は全然違うということ。まるで別の国にいるような感覚でした。しゃべっている人の言葉も同じ中国語のはずなのにまるで違う国の言葉に聞こえました。知らない間に自分の中で小さな不安がこみ上げていたのを覚えています。大学で勉強していたはずなのに、その中国語が現地の人にちゃんと伝わるだろうか、みんなと仲良くなれるのだろうか、と外に出るのが怖かったこともありましたが、授業が始まるとすぐにクラスの子とも仲良くなり、1ヶ月が経つと最初はとても難しく感じた中国語での授業にもすっかり慣れ、リスニング力が一番のびたと感じました。クラスには他国の生徒もいますが、国によって中国語の発音に特徴があり聞き取りにくいこともありましたが、不思議なことにすぐに何を言っているのか分かるようになります。そして、1人ひとりをきちんとしゃべらせる授業が多かったのも、すぐに話す力をのばしてくれた要因でした。授業は決して簡単ではなかったと思います。課題やスピーチやプレゼンテーションは毎日のようにありました。そのおかげで私は自信が付き、北京に着いた当初あった不安もなくなり、1人で北京の街を散策したりできるようになりました。

北京の生活にもすっかり慣れたある日、ある学生の団体と出会いました。それは、日本人留学生だけで活動している、日本のかわいいものを中国に伝える「カワイイジャパン」という団体でした。日中交流団体はたくさんありますが、普通の交流団体ではなく日本の流行を発信していく、日本のかわいい文化を中国に伝えるという少し変わった活動に惹かれ、私も共に活動していくことを決めました。



クラスメイトと（筆者右から3番目）

この活動では、ただお固く日中交流をしていくのではなく、日本の様々な文化が好きな中国人といろいろな形で交流することができました。中でも自分が感じたのは、日本のアニメ、マンガの文化が中国で絶大な人気を誇っているということでした。私自身もアニメが大好きです。ただそれだけでこんなにも簡単に国の壁を超え、言語の壁を超え、わかりあえるとは思っていませんでした。アニメやマンガ以外にもファッション、メイク、アイドル、など様々なものを通してたくさんの中国人と交流を深めることができました。日本語というものに興味を示してくれているのはもちろん、今の日本の文化に対しても興味を持ってくれることにとても嬉しさを感じました。そんな私が参加していた団体が、北京で開かれているコミックマーケット（アニメ、マンガの祭典）に招待され、舞台上で日本の流行曲やダンスを披露する機会もありました。次第にカワイイジャパンという団体の知名度が高まるとともに、「もっと日本のことを知りたい。日本語を知りたい。日本人留学生と交流したい。」と言ってもらえることが増えました。その時私は改めて留学に来た意味を感じることができました。

1年間の留学生活の中で、北京大学での授業は今までにないくらいの貴重な体験でした。様々な国の学生とともに同じ中国語を学び、素晴らしい環境と教師に囲まれ毎日が充実していました。そして、もう1つ、私が感謝しているのはこのカワイイジャパンという団体です。留学＝勉強のイメージがあると思いますが、学校の外にもたくさんの出会いやチャンスがあるのです。私のように勉強が得意でなくても、自分の好きなものを通して、文化や言葉の壁を乗り越え、通じ合うことができる。それを学外の団体活動で学ぶことができました。もし、皆さんが中国に留学に行ったら、まず思ったこと、不安なこと、好きなこと、全てを表に出してみてください。日本にいる時より大胆でいた方が得ることが多いと思います。勉強だけが大切ではなく、自分がどれだけ好きなことを表現できるか、それだけで世界は広がり、深まる。そんな勇気と自信をもらった留学生活でした。



### 台湾・中国文化大学

文学部4年 湯本 智瑛

中国文化大学に留学していた一年間はとても楽しく、良い経験になりました。日本に帰ってきてからは今まで台湾では当たり前だった環境がなくなってしまうのかと思うと物足りなさを感じますが、自分でしっかりと意識を持ち継続して頑張っていきたいと思っています。

学習面では、前期は留学生用の科目を履修し、後期では本科の科目を多く履修しました。留学生の科目、特に会話の授業では、中国語の学習はもちろんのこと、他の国籍の留学生と交流することで、彼らの中国語の癖や良いところ悪いところを探しだすなど日本にはなかなか出来ないことを自分なりにやっていました。会話の授業は想像していたものとは大きく違い、外国人どう



して話し合うというスタイルでした。正直に言うとそのスタイルは自分が求めていたものではなかったの、いかにして授業以外のところで中国語を使うか、台湾人とコミュニケーションを取るかということが留学に行って最初に直面した大きな壁でした。しかし幸いにも昨年度二松学舎大学に交換留学で来ていた台湾人の先輩2人のおかげでたくさんの友だちができ、サークルにも参加するなど充実した生活を送ることが出来たと思います。

サークルに参加させてもらうようになると、「日本語学科以外の学生になかなかわかってもらえない」という次なる壁に直面しました。しかし今ではこの壁が大きく自分を成長させてくれたと思います。この壁に直面したおかげで自分の中国語を見直すことが出来ました。

他にも前期には、自分の好きな台湾の芸能人のイベントに行き話をして、旅行に行っているいろいろなものを見たり、ホテルの部屋に問題があってフロントのおばさんと言ひ合いをしたり、とても楽しい経験をしました。それと同時に、中国語を使ってできることが増えたなど実感することが出来ました。

後期に入り、本科の科目を履修するようになると、一転して授業に追われる日々となり大変でした。わかっていたつもりでも留学生の科目と本科の科目のレベルの差は天と地ほどの差と言ってもよく、専門用語が多いためなかなかついていくことが出来ませんでした。毎週のチューターの活動など、台湾人の助けを借りてなんとか乗り切ることができました。後期を終えて感じたことは、中国語で行われる授業をきちんと理解するためにはまず日本語で理解していること、そうでなければきちんと時間をかけて予習をして最低限の用語等はわかるようにしておかなければいけないということです。中国文化大学で履修した本科の科目の内容は、日本での授業よりも細かいなど感じるが多々あり、その分準備も大変ですが、そこを怠ってはいけな

いことを強く感じました。あたりまえのことですが怠ってしまった自分がいたことは大きな反省点です。

収穫としては、論述テストやレポートの提出をする中で書面語的な表現を習得できたことです。普段の会話では使うことのないような形で文章を書くことは難しく、苦勞しましたが、留学生の授業では出来ない経験が出来たのは良かったです。

こうして改めて振り返ってみると、この一年間は本当に早かったなと思います。しかしその短い期間でもとても多くの事を学んで来られたと思います。そしてこの留学は自分の考え方を大きく変えるものでした。台湾に留学したことで、もっとやってみたい、勉強してみたいと思うものが見つかりました。このように思うことが出来たのも台湾留学中に自分と関わってくれた友だちをはじめとする全ての方のおかげであり、なにより交換留学に行かせてくださった二松学舎大学の先生方、両親のおかげであると思います。今後はこの感謝の気持ちを胸に次のステップに進み、努力を続けていきたいと思っています。



日本語学科の友達と（筆者前列中央）

## 交換留学生修了報告



### 交換留学の感想

中国・浙江工商大学 黄 碧波

冬の日差しが窓を突き通って、目の前の食卓に射している。喫茶店で冬の日光を満喫しながら私は今までの留学生生活を振り返っている。

私はもともと「あつという間に」という言葉が好きだったが、今その言葉

の残酷性をしみじみと感じ、この言葉が嫌いになった。

9月10日の午後、日本に到着した。雨上がりのその日の夕方に虹が出てきたことは、私に一番深い印象を残した。こんなに美しい虹を見て感動した私は、これから虹のように、自分の光をこの土地にも撒こうと決めた。そんな考えを持ちながら、元気いっばいの気持ちで留学生生活を始めた。

日本に来て、私は電車で本を読むことが好きになった。自分で料理を作ることが好きになった。一人で東京タワーを楽しむことが好きになった。また、二松学舎大学の交流会をはじめとする多くの有意義な活動に参加した。これらの忘れられない思い出は私にとって一生の富だと信じて

いる。

そろそろ留学生活も終わりを迎えるので、帰国する前にもっと自分の好きなことをしたり、行きたいところへ行ったり、今までお世話になったすべてのみなさんに感謝の気持ちを表したいと私は思っている。



江の島の海風を味わう私



## 輝く日々

中国・浙江工商大学 任 夢青

光陰矢の如し、東京に来て、はや五ヶ月が過ぎました。

この半年、私は勉強も生活も満喫しました。二松学舎大学では、授業

方法が中国とは違い、一方的に教師が教えるのではなく、楽しい会話をしながら授業をします。また、資料も色々あり、論文を完成させるにあたって大きな力となりました。江藤先生や松本先生のようなメディア専門の先生も多く、先生方からアドバイスをいただけて、本当に感謝しています。

東京には以前にも来たことがあります。最初は戸惑いばかりでした。複雑な地下鉄に迷ったり、電気代の支払いを忘れてたり、家の給湯器のチューブが壊れたりして、それでも、今ではすっかり慣れました。そして、東京観光はもちろん、沖縄にも行きました。旅で出会った優しい人々の顔は、今でも忘れません。

留学生活は一見楽しいことばかりですが、困難にぶつかることもあります。それでも、留学は私の世界を新しく変えてくれました。苦しくても、毎日前向きに生きていこうと輝いた日々でした。最後に、留学の機会をくれた浙江工商大学と二松学舎大学の先生方や両親に感謝します。



ディズニーシーにて



## 時をTokyo

中国・浙江工商大学 喻 星

2016年の初頭、窓から入る陽ざしが暖かく感じて、近くにある公園で子供たちの遊んでいる姿が見えます。9月から埼玉県富士見市のみず

ほ台に住んでいますが、落ち着いた雰囲気が気に入りました。みずほ台とは対照的に、二松学舎大学は高層ビルが林立している東京都心に位置し、1号館の13階からは東京タワーとスカイツリーが見渡せます。この4ヶ月間、静かさと賑やかさの両方が、日本の魅力としてたっぷり感じられています。

秋の留学生交流会は埼玉県の秩父へ行って、伝統工芸館で自ら紙漉きをして、自分だけの和紙を作りました。それから、バーベキューと葡萄狩りも楽しみました。10月末に附属柏高校を訪問して、授業の形式で高校生たちに中国文化を紹介し、いい勉強になりました。12月にはスピーチコンテストが行われ、私は「エレベーターのマナー」というテーマを発表し、国際交流センター長賞を受賞させていただきました。短い時間でしたが、色々な試練を乗り越えて、素晴らしい思い出を作りました。

国際交流センターの皆様、お世話になった先生方に、衷心より感謝の気持ちを申し上げます。残りわずかな留学生活も、これからの人生も、楽しんでいきたいと思えます。



沖縄の美ら海



## 平成27年度 秋セメスター交流会実施報告

二松学舎大学では、国際交流の一環で、留学生に日本の文化・自然・歴史等に触れてもらおうと、都内近郊へ小旅行に出かける留学生交流会を行っています。

本年度秋セメスターの留学生交流会は、平成27年10月25日（日）に実施され、秋から本学への留学が始まったばかりの交換留学生（北京大学・中国文化大学・浙江工商大学）を含む20名の外国人留学生と3名の日本人サポーター学生が、埼玉県・秩父を訪れるバスツアーに参加しました。和紙の紙すき体験やぶどう狩りなど、秋の秩父路を満喫しました。



### 秩父と、一日の巡り会い

文学研究科 博士前期1年 李 艶萍

いよいよ10月25日がやってきました。今回は春の交流会と違って、バス旅行でした。東京から少し離れた埼玉県にある秩父市へ行きました。

予定通り9時に出発して1時間半後、埼玉伝統工芸館に着きました。

川を渡って山々に囲まれて、澄み渡った空を見あげると、なんと爽やかな気分でしょう。

埼玉伝統工芸館には、岩槻人形や小川和紙、草加本染ゆかたなど、埼玉県指定の伝統工芸品が展示されています。今回は1200年を超える歴史を持つ、小川和紙の紙すき体験をさせていただきました。自分の手で作ったオリジナルの和紙が数日後に届いた瞬間、おもしろいというより、ありがたいという気持ちになりました。

その後、バスで移動して古沢園へ昼ごはんを食べに行きました。深緑に囲まれた山裾にある古沢園で、バーベキューをして湧き水を飲ませていただいて、食べ物だけでなく、目の前の自然もいっぱいご馳走になりました。

次は念願のぶどう狩りでした。一房一房立派に育てられた巨峰ちゃんたちが、口に入った瞬間、甘くてたまりませんでした。30分があっという間に過ぎてしまいました。

旅はまだ続きます。次は橋立鍾乳洞を見学しに行き

ました。橋立鍾乳洞は県内唯一の観光洞で、洞内の3分の2以上が堅穴という大変珍しい鍾乳洞と聞きました。さすがに堅穴が多くて、ほぼ90度の傾斜の階段がいくつもあって出口まで登るのは大変でしたが、みんなと一緒に冒険でもできたような気がして、面白かったです。

最後は、日本三大曳祭りの一つである“秩父夜祭”を展示している秩父まつり会館に行きました。資料や実演で再現された秩父夜祭の素晴らしさに感心しながら、日も暮れて来ました。

伝統文化や自然を大変満喫した一日でした。これが、私たちと秩父の巡り会いでした。日本の魅力を味わうことができた一日でした！



BBQにて（筆者：右）

## 附属柏高校との交流会を実施しました

平成27年10月29日（木）、附属柏高校生との交歓交流会が実施され、同高1年の生徒と本学在籍留学生9名が交流を行いました。今年度は、2年生の修学旅行事前学習会に、台湾からの留学生1名が参加し、11月に実施される、附属柏高校2年生の台湾への修学旅行の事前学習会として、台湾についての紹介をしました。

毎年実施しているこの交流会は、高校生にとっては、外国の文化や風習への関心を高め、外国を身近に感じることができる良い機会であり、また留学生にとっては、日本への理解をさらに深めるとともに、日本語で自国の文化を紹介する貴重な場となっています。



### 柏高校交流会感想

国際政治経済学部3年 張 輝

日本の高校に行く機会は普段ないので、最初はとても緊張しました。また、「自分の話に高校生たちは興味があるのか?」、「みんなの反応が冷たかったらどうしよう。」等といろいろ不安に思い、お腹が痛かったこともあります。

常磐線で柏駅に到着し、そこからスクールバスで柏高校に到着しました。

私が交流するクラスは、1年3組でした。交流会の前に、担任の先生と面会し、今日自分がする話題等について、打ち合わせをしました。打ち合わせの最初に、担任の先生が「私のクラスの生徒は、みんなすごく明るいので、大丈夫ですよ。」と言ってくれたので、緊張が少し軽くなったことが印象に残っています。

教室に入ると、生徒がみんな私の顔を見て、準備していた話題はすっかり忘れてしまい、頭の中が真っ白になりま

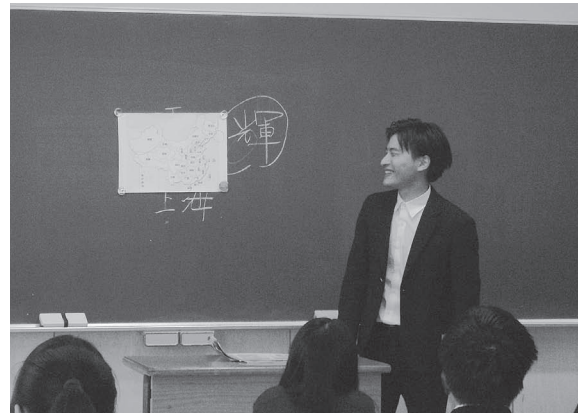
した。心臓の音は、たぶんとても大きかったと思います。

最初はそんな感じで、しどろもどろでしたが、先生が話題を振ってくれたおかげで、段々と落ち着きを取り戻し、交流会の終わりの方では、「もう時間になったのか。もっと話したかった。」とさえ思うようになっていました。

自宅に帰って、今日の事を考えていると、「自分ばかり一方的に話しをしてしまい、高校生たちの話しをほとんど聞けなかったの、これは交流会とは言えなかったのでは？」と反省しました。

またこのような素敵な会に参加するチャンスがあれば、ぜひ参加したいと思います。

1年3組のみなさん、先生、本当にありがとうございました！



笑顔で自国を紹介する張輝さん

## 平成27年度第12回外国人留学生日本語スピーチコンテスト開催

平成27年12月5日（土）に九段キャンパス1号館507教室にて「第12回外国人留学生日本語スピーチコンテスト」が開催されました。今回は、海外協定校からの交換留学生6名を含めた、中国・台湾・バングラデシュからの留学生10名が出場しました。参加した留学生にとっては、日頃の日本語学習の成果を試す絶好の場であり、この日のために練り上げられたスピーチは、どれも聞き応えのあるもので、観客も大いに盛り上がりました。

審査員による選考の結果、学長賞に選ばれたのは、台湾からの交換留学生の許瑞玲さんです。タイトルは「欠けていたもの」。その他の各賞については、下記のとおりです。

今年で12回目の実施となりましたが、今回のコンテスト見学者の中には、教職員および日本人大学生はもちろんのこと、父母会の役員の方々や、附属柏中学校から中学生、また本学と交流協定のある大妻女子大学から留学生達も多数見学に来られ、大いに盛り上がったコンテストとなりました。

大勢の聴衆が見守る中で、自身の考えたスピーチを発表するという経験は、日常の大学生活では得られない貴重なものであり、参加した留学生にとっても、大変有意義なコンテストになったと思います。

### ◇学長賞

「欠けていたもの」

交換留学（台湾・中国文化大学）

許 瑞玲



### ◇父母会賞受賞

「私における日本語」

交換留学（中国・浙江工商大学）

任 夢青



「あなたに感謝したい」

交換留学（中国・浙江工商大学）

黄 碧波



### ◇国際交流センター長賞

「エレベーターのマナー」

交換留学（中国・浙江工商大学）

喻 星



### ◇審査員特別賞

「国によって  
お正月の楽しみ方様々です」

国際政治経済学部 国際政治経済学科2年

エムディ ナジュル イスラム





## 学長賞受賞スピーチ

## 「欠けていたもの」

交換留学（台湾・中国文化大学）許 瑞玲

皆様こんにちは、許瑞玲と申します。台湾中国文化大学から参りました交換留学生です。

これから、「欠けていたもの」について発表致します。よろしくお願い致します。

四年前、私は高校二年生でした。来年の大学入学試験のため、クラスメートたちは一生懸命勉強していて、毎日小テストや宿題がいっぱいありました。授業が終わった後も学校で夜の自習がありました。私はそんなに真面目な学生ではないですが、このような雰囲気の中で、多少ストレスを感じていました。

その時、学校は学生に運動する習慣をつけさせるために、グラウンド100周走ったら、表彰する制度を設けました。すると、友達から「一緒に走ってみよう!」と誘われたのです。最初は本当に疲れました。でも、毎日続けました。走りながら友達と喋ったり、自分の将来を考えたりして、ストレスの解消もできました。走っている30分の時間は、その頃の私にとって、一日の中で一番楽しい時間でした。疲れましたが、楽しかったです。そして、ジョギングを始めてから、私自身明るくなってきました。ですから、高校を卒業しても、時間があれば、家の近くにある運動場でジョギングをしています。

今年の九月、交換留学のため、東京にきました。来たばかりの頃は、いろいろな手続きが必要でした。生活用品を買うとか、住むところの片づけとか、忙しかったで

す。でも、二週間が過ぎて、すべて終わっても、なぜか何かが欠けているような気持ちになりました。その時、以前聞いたことのある皇居周りのジョギングコースを思い出しました。ずっと行きたいなあと思っていたので、ある日の夕方、皇居へ行きました。その日はちょっと寒かったです。もし疲れたら、ちょっと歩いてもいいかなと思いましたが、一步踏み出したとき、「これだ! やつと見つかった!」とそう思いました。

ずっと何かが欠けていると思っていたことはジョギングだったのです。ジョギングをしていると心も落ち着きます。気持ちがとてもよかったです。その日周りの景色を見ながら将来のことを考え、とても楽に、皇居を一周走りました。今は週二回ジョギングをしています。毎回10キロメートル走ります。10キロメートルというと、皇居を二周して、1時間ぐらいかかります。時々友達と一緒に走ったり、自分一人で走ったりもします。走る時間は、私がリラックスできる時間だから、とても大事にしています。

ジョギングは私にとってはもう太陽や空気や水のように、重要な存在です。普段はそんなに気にしませんが、いつの間にか、生活の中でもう欠かすことのできないことになりました。ジョギングを始める前までは、私にとって走ることが、こんなに大きなこととは思っていませんでした。ジョギングの大切さに最近やっと気づきました。これからも走り続けたいと思います。

皆様もこんな経験はありませんか。

これで発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。



## 平成27年度国際交流年末懇親会を開催

平成27年12月5日（土）、九段校舎地下1階学生食堂にて、国際交流年末懇親会が行われました。当日は、留学生や関係教職員をはじめ、父母会役員、国際交流サポーターの日本人学生たちの総勢61名が集い、賑やかな懇親会となりました。菅原学長からご挨拶を頂き、続いて田中父母会長による乾杯のご発声で開会。途中、同日開催された外国人留学生日本語スピーチコンテストの授賞式も行われ、会場中から出場した留学生らに暖かい拍手がおくられました。その後、今年度で卒業・修了予定となる留学生、塩田国際交流センター長からのご挨拶があり、盛況のうちに幕を下ろしました。今回も父母会のご援助により盛大に実施できましたことを、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。来年も多くの方々のご参加をお待ちしています。



## 平成27年度海外協定校教職員相互訪問制度に基づく教職員の来訪

平成27年12月10日（木）～12月15日（火）の日程で、北京大学歴史学系より、**管涛**副教授が本学を訪問されました。本学と北京大学歴史学系との海外協定校職員相互訪問制度は、平成13年度から始まり平成27年度で第14回目を迎えました。管副教授は北京大学歴史学系の副主任で、トルコ史を専門に研究されています。本学で開催された記念講演では、「シルクロードと世界史上の中国」と題し講演を行い、多くの学生が熱心に耳を傾けていました。

期間中は箱根まで足を伸ばし、雄大な富士山や箱根神社等の旧跡見学を堪能しました。短期間ながら充実した6日間を過ごされました。



学長室にて表敬訪問

左から塩田センター長、高野副学長、管副教授、菅原学長、劉瀟雅さん

## 国際交流センターからのお知らせ

### ◆団体割引で受験！TOEFLの募集スタート

**申込期間** 4月1日(金)～4月22日(金) **実施日** 5月28日(土)

詳細は随時掲示します。

TOEFL ITP 試験は、正規 TOEFL に比べ、約 1/3 の受験料で受験でき、また正規試験と難易度が同程度であるため、将来海外留学を考えている方、自分の現在の語学力がどの程度なのか知りたい方、正規試験受験前の腕試しを考えている方に最適です。ぜひ受験してみましょう。

### ◆オーストラリア・韓国への派遣留学生募集説明会

**日 程** 4月13日(水)、14日(木)、20日(水)、21日(木) 昼休み **場 所** 九段キャンパス

編集後記

◇短期の認定留学として、これまで中国語圏および英語圏の2地域で「短期海外語学研修」を実施しており、参加した学生からは充実した留学体験ができたこと好評を得ておりますが、次年度は従来の中国語圏、英語圏に加え、韓国語圏での実施も予定しております。詳細につきましては、決まり次第、大学ホームページ等で案内いたします。

◇「国際交流」へのご意見・ご感想をお寄せください。 E-mail : icenter1@nishogakusha-u.ac.jp